

# 楽しい学び舎 育て英才

一人一人を大切に、伸ばせ創造力



授業

真剣



SPP



部活



実習

充実



一人に一台し教室

## 前橋育英高校報

発行

前橋育英高等学校  
合同紙広報委員会  
前橋市朝日が丘町13  
TEL.027-251-7087  
FAX.027-252-9419  
office@maebashiikei-h.ed.jp

印刷

株式会社 ヤマザキ  
高崎市中豊岡町483-8  
TEL.027-344-3211(代)

### 主な内容

- 1 面 楽しい学び舎
- 2 面 理事長・校長挨拶  
詩のまち前橋  
ぐんま少年の船
- 3 面 スポーツの活躍
- 4 面 保護者会だより  
会長あいさつ  
全P連大会
- 5 面 保護者会だより  
進路講演会  
育英祭
- 6 面 同窓会だより(雄渾)  
会長あいさつ  
私の近況報告  
親子二代同窓生
- 7 面 同窓会だより(雄渾)  
近況報告  
プリンスリーグ
- 8 面 後援会だより  
会長あいさつ  
総会研修旅行

### 『建学の精神』

「正直・純潔・無私・愛の道義標準に基づいて、徳徳理念を培い、知育・徳育・体育を以って人格の陶冶と練成をはかり、つねに国際的視野に立って、世界平和と社会の福祉に貢献できる人材の育成を期することを建学の精神とする。」

# 改革への確かな一歩を

理事長 中村 義寛



馬県の公立高校は学校区が廃止され、公私立を問わずどの地区からでも高校を選べる時代になる。

このような中、前橋育英高等学校では、本年4月より小茂田恵三先生が第14代校長に就任し、新体制がスタートした。

既にいくつかの改革が行われているが、特進コースでの土曜日の必須授業や、特進進学コースの英数学館での補習など、特に進学面の強化に力を入れている。前橋育英高等学校が目指すものは、建学の精神に基づく心の教育、知育・徳育・体育のパラ

期であった。平成19年度からは群

# 夏の頑張りを育英祭へ

校長 小茂田 恵三



日頃から、本校の教育活動にご理解とご協力を頂きまして誠に有り難うございます。

さて、この夏、本校の生徒達は本当に

よくやってくれました。今年度千葉県で行われたインターハイはもとより、各種大会で目覚ましい活躍を見せてくれました。中でも、サッカー部はプリンスリーグで大活躍し、高円宮杯全日本選手権に関東代表として出場します。

文化・学術部門で特筆すべきは音楽部が、県コンクールB組部門において金賞を受賞し、西関東大会に出場した

の年です。その記念すべき年に、育英

祭を開催できることを大変嬉しく思います。生徒諸君には、この夏の頑張りを育英祭に繋げて欲しいと念願します。

こと、「詩のまち前橋若い芽のポエム」において本校生が見事銀賞を獲得したことです。また、県内の私学としては初めてSPPを実施しました。聖母大学の沼田光弘先生・国立感染症研究所の山本明彦先生を講師に迎え、その本格的な授業に熱心に取り組みました。

十月に入ると、いよいよ三年の進路指導が本格的に動き出します。大学、専門学校への推薦入試、就職試験等目白押しです。

十月の二十一日・二十二日には育英祭が控えています。(一般公開は二十一日)今年度は愛・地球博の開催年でもあったわけで、国を挙げての文化の年です。その記念すべき年に、育英

朝日会	会長 長記査	副会長 副書監	1組 組長	2組 組長	3組 組長
自治会	木崎 畑野藤	根 飯青	岸田 柳		
町会	鈴木 下中齊				
丘					
が					
日					

祭を開催できることを大変嬉しく思います。生徒諸君には、この夏の頑張りを育英祭に繋げて欲しいと念願します。

# ぐんま少年の船 一乗船記

潮田 佳奈 (三ノD) (芳賀中)

私はこの夏一番の思い出となった「ぐんま少年の船」で、偶然に出逢った仲間達とさまざまな事を学び、そして体験しました。顔も名前も知らない、住んでいる地域も年もバラバラの人達と過ごした五日間は言葉では言い表せない程素晴らしい楽しかった。

私達が五日間を過ごした船「にっぽん丸」の大きさはなんと一縦にすると県庁よりも高く、想像をはるかに超えるものでした。船に乗船し、出航し沖に出ると、前後左右360度海の世界でした。見渡す限り雄大な海が広がり、大きな夕日・日の出・イルカの群れを見る事ができました。

船の上の生活は、まさに出逢った友達との友情を育むものでした。何をやるにも船の上では団員との協力が大切だったので、いつの間にか深い友情が芽生えました。そんな友情が芽生えたのは、船上のプログラムである洋上オリンピックがあったからだと思えます。また、さよならパーティーでは団員同士の大きなつながりを感じました。

船の上ではとにかく初めての経験ばかりで、学んだ事をこれから生かされたいと思います。今思えば、たったの五日間だったけれど、五日間でつくり上げた思い出と友情は、一生心に残ると思います。出と友情は、一生心に残ると思います。

笑みあり、涙もあり...また機会があったら何回でも参加したいです。皆さんの人ができれば良いと思います。

# 「保育科ボランティア活動」

保育科長 中村 隆喜

夏休み中の八月二日、吉岡町文化センターにおいて、幼児を対象としたイベント「お姉さんと遊ぼう!!」というコーナーに本校保育科三年生九名が参加し、約五十名の幼児とその保護者達にも大好評を得た。実は昨年の第一回に参加したのがきっかけで、それが大評判だったため今年も是非との要請を受けて、昨年に続き披露することになった。日頃授業等で勉強しているパネルシアターやゲーム手遊びなどでも達と一緒遊びながらその場を大変盛り上げた。この事は後日上毛新聞にも写真入りで掲載された。



於 吉岡町文化センター

# 第9回『詩のまち前橋 若い芽のポエム』で銀賞獲得

萩原朔太郎ら多くの詩人の出身地である「詩のまち前橋」が発信する若者の詩のコンクールに、全国から1万5千6百編の応募があり、入賞・入選者合わせて90人が選ばれた。その中で、高校の部において本校2年、渡邊洋平君(前橋3中出身)が銀賞に入賞した。その作品を紹介いたします。

橋

渡邊 洋平(二一七)

赤城おろしの  
乾いた北風  
橋の上の僕  
一進一退の向かい風  
風とのかけひき  
押し戻されそうな僕  
真正面、頭を低く  
渡るこの橋

ペダルに思いきり力を込める  
風も僕も橋を駆ける  
眼下の激流  
どどっ、どどっ  
すいこまれそうなの川  
ときも止まらず  
たえず流れる  
二度と戻らず  
とどまらず  
逆らわず  
ただひたすら流れる  
流れる音に  
導びかれる僕  
輝き出す川面  
明日へ向かい  
こぎ続けるペダル  
橋を駆け抜ける  
風も僕の背を押す

# スポーツの結果

広報室次長 湯本 俊明

## ◆インターハイ(2005千葉きらめき総体)◆

陸上競技	800m	第三位	木村 哲也
ウエイト	八十五kg級	第五位	片平 悠介
水泳	飛込 高飛込	第五位	岡部 優

「輝きを胸に 夢をその手に 房総の夏」をスローガンとして、高校スポーツ最大の祭典、平成十七年度全国高等学校総合体育大会・2005千葉きらめき総体(通称インターハイ)が、初月一日から二十日の長期にわたり、千葉県を中心に開催された。

本校からは、柔道、陸上、自転車、ウエイトリフティング、ボクシング、フェンシング、テニス男子、テニス女子、水泳の九つのクラブ(選手総勢三十八名)が群馬県代表として出場した。今年も各クラブともに全国の強豪校を相手に活躍がみられた。

また、個人では陸上競技部の木村哲也が八百mで第三位。ウエイト部の片平悠介が八十五kg級で第五位。水泳部の岡部優が高飛込で第五位と上位入賞を果たしたことは特筆に値する。

出場選手一覧  
 【陸上競技】青木勇也(二一)、古澤慶太(二一四)、清水堯之(二一五)、有間圭一郎(二一A)、

管正嘉(二一A)、須田京介(二一A)、清水康博(三一四)、岩木佑太(三一三)、木村哲也(三一A)、是木滝彦(三一A)、押江和也(三一A)、宮沢大吾(三一B)

【柔道】団体出場/加藤大介(二一A)、荒巻亮太、佐藤龍登、板橋保夫(三一A)、清水司、片山善之(三一B)

【フェンシング】高野亮(三一A)

【ボクシング】齊藤大樹(二一A)、金井浩史(三一三)

【ウエイトリフティング】大山喬生(二一四)、片平悠介(三一B)

【自転車競技】伊丹健治(二一A)

【テニス】男子/松田隼人(一三三)、女子/団体出場、竹田紗織(一一)、松田実季、細井めぐみ(一一)、金子真依(一一)、武正周子(三一)

### 硬式野球秋季大会

2 回対	戦 万場高校	28:0
3 回対	戦 渋川工高	13:5
4 回対	戦 桐生第一	7:2
準々対	決勝 沼田高校	0:5

## 桐生第一を撃破!!

第六十回国民体育大会(晴れの国岡山国体)の夏季大会が九月十日〜十三日、岡山県で行われた。

本校では次にあげる選手が群馬県代表として出場した。とりわけ目立ったのは県選抜チームとしての出場ながらレギュラーの大半を本校サッカー部員が占めた少年男子サッカーの準優勝である。

### 夏季国体出場選手一覧

【水泳】飛込  
 村上和基(二一A) 高飛込 第三位  
 岡部優(三一A) 高飛込 第七位

活躍した村上選手



## ◆第60回国民体育大会◆

(晴れの国岡山国体)

九月二十四日の第四回戦に於いて目前の難敵桐一を投打に圧倒、投手陣の踏んばりと強力打線でベスト八に進出した。

思えば二年前の夏の県予選で四対三とリードして桐一を追いつめ、十中八九、誰もが我が校の勝利を信じていた。それが悪夢の逆転を許し敗れている。それだけに今回の勝利は計り知れない程大きく今後の試合に自信となつて来るだろう。

しかし五回戦では沼田高と対戦、〇対五で敗退した。残念な結果で有るが今後も定位置のベスト8から抜けだし桐一を倒したこれを糧に活躍を期待したい。

N記

【サッカー】少年男子団体準優勝 九名出場。田中亜士夢、阿部剛士(三一A)、市川裕樹、笠原嵩太、高田大将、堀越寛人(三一B)、三沢慶一(二一五)、藤倉千明(二一A)岩沼俊介(二一B)

なお、秋季国体は同じ岡山県を中心として十月二十二日〜二十七日開催される。

### 自転車部 伊丹健二君 世界大会出場

自転車部の伊丹健二君(二一A)が日本代表としてイタリアで行われるジロ・デルニジアナ(ステージュレース)に出場が決定。本人も「日本代表の一員としてナショナルチームの入賞をめざす」と意欲を見せている。

### 「サンデー毎日」で本校が紹介されました

八月三十日発売の「サンデー毎日」の特集記事「特色ある私立中高教育」シリーズ第六回において本校が紹介されました。グラビア三ページ、モノクロ記事三ページにわたり、本校の特色が詳細に紹介されています。

### 映画「タッチ」いよいよ公開

今年三月二十五日に本校で撮影ロケが行われた映画「タッチ」(製作:タッチ政策委員会)が九月十日より全国一斉ロードショー公開されました。随所で本校撮影されたシーンを見る事ができます。また、ポスターやパンフレットなどでも本校施設の写真が使われています。





## 学校週5日制に関して



保護者会長  
武田 弘之

新年度が始まり早いもので半年が過ぎました。この半年間、保護者会では恒例行事の定期総会、各学年別懇談会、各マナーアップ運動、保護者会通信の発刊、専門委員会、進路指導講演会、インターハイ壮行会等の校内行事の遂行及び群馬県、関東全国の各高P連の総会への

参加等の校外行事に取り組んでまいりました。これらさまざまな行事に御協力を

けるとともに、後半の行事へも引き続き御協力を賜ります様、宜しくお願い致します。過日発刊された全国高P連会報に「学校週5日制に関する意識調査」について、保護者へのアンケート結果の集計が発表されていきました。この制度が実施されて3年経過しました。各方面で矛盾が生じているようです。良かったか、良くなかったかの集計は、良かった四一%。良くなかった三七%、わからない一四%、その他八%という結果だったそうです。対象外の私立高校では半数近くが土曜授業を実施し、「公私間格差」の拡大の問題、実質的には二〇の自治体が土曜授業

を公認。又、文科大臣の土曜授業の容認発言等があり、制度に振り回されているのは自治体や学校、生徒、保護者です。ある保護者は「自立心のある子供にとつては良い制度だと思ふ。(ゆとり)と怠惰は違ふとの制度保障が必要ではないか」とか「家でぶらぶらする時間が増えた」などの意見が挙がっていました。多数の方があまり良くないと感じていたならば、早い時期に見直した方が良いと思ふのですが、誰のための制度なのでしょう、疑問が残ります。

## 「全高P連」に参加して

保護者会副会長 佐藤 睦美

八月二十七、二十八日にわたり、長野市を中心に開催され、一万人を超えるPTA関係者が参加し、『自立と共生』をメインテーマとし、大変活気あふれる大会となりました。

記念講演では、信州大学の遠藤教授による「想像力を育て」と題し、最近問題となっている子ども達の「人間力」「創造力」を養うにはどのように育てていったら良いかというお話で、親として子育てを再確認させら

れる貴重な内容でした。また、分科会においては、「進路指導とPTA」というまさに保護者として、一番関心のあるテーマに参加させて頂き、発表校による前向きなPTA活動には参考にすべき事が多々ありました。助言者の方々のお話に今の若い人たちの現状、また企業が求める人材について率直な意見を聞くことが出来ました。二日間、有意義に過ごさせて頂きました。



平成17年度PTA関係研修会日程

大会名	日程	場所
県私立中学高等学校父母の会連合会 総会	6/3(金)	前橋テルサ
県高P連総会	6/17(金)・18(土)	伊香保ホテル天坊
関東高P連大会(第51回栃木大会)	7/7(木)・8(金)	栃木県
全国高P連大会(長野大会)	8/27(土)・28(日)	長野県
中毛地区高等学校PTA指導者研究集会	10/5(水)	県生涯学習センター
県私学中学高等学校父母の会連合会 役員会及び学校見学会	10/12(水)	本校
県高P連指導者研究集会	11/18(金)	前橋テルサ
県私立中学高等学校父母の会連合会 役員会及び学校見学会	12月	農工高校

## 教育実習を終えて

城尾 実希(高崎塚沢中出身) 群馬県立女子大学(美術)



六月の教育実習は二週間という短い間ではありましたが本当にお世話になりました。育英高校を卒業して五年目になりますが、私が在学していた時にいい雰囲気、学校になつていけると感じました。みなさん、きちんと挨拶をして下さるので毎日とても気持ちよく過ごすことができました。

はじめは教壇に立つことがとても不安で、足は震えるし声も

出なくて、申し訳ない気持ちでした。しかし流れを感じ取れるようになる。授業をするのが楽しくなり、クラスごとに返ってくる反応が違うのも興味深いことでした。皆さんの貴重な時間に授業をさせて頂けたことに感謝し、そして光栄に思います。二週間は本当にあつという間、まだまだ皆さんとお話ししたり勉強したりしたかったのに残念です。けれどもこの実習期間はとても内容の濃い充実したものにすることができました。ありがとうございます。そして皆さんのご成長を心よりお祈りします。

## 教育実習を終えて

福井 和真(岡山西栗倉中出身) 日本大学体育学部(保体)



今回この教育実習を通じて実際の教育の現場で大変貴重な体験をさせて頂きました。3週間というとても短い期間の体験でしたが私は教員を目指していることが間違いではなかったことが再確認でき、またこれからのしっかりとした目標ができました。

実習前は、どんな生徒達がいるのか、自分にうまく授業ができる

のかなど不安ばかりが頭を過ぎりました。しかしいざ実習が始まると、指導教諭の原次彦先生の指導のもと授業を少しずつこなしたり、生徒と接していくにつれ不安はどこかに消え、楽しさや、やりがいを感じることもできました。それと同時に教員という職業の難しさなども少しではありますが体験できました。

3週間のこの貴重な体験を生かして教員になることを目標にこれからも一生懸命勉強したいと思えます。私の担当した生徒のみならず、私はみんなと過ごした素敵な時間を一生忘れません。ありがとうございます。

### 進路講演会

保護者会副会長 板橋 和美

七月二十三日(土)本校視聴覚室において、今年も沢山の熱心な保護者の方々が集い進路講演会が開かれました。育英高校の進路レベルの向上と共に保護者の方々の学校側への期待も年々高くなっているようです。

今年、講師に安田一裕先生(株)昭栄広報教育情報部第二課主任)を迎え「子供と一緒に進路を考える(アドバイスの仕方とタイミング)」と題して講演していただきました。

最近の進路状況の変化や特徴から始まり、親の期待と子供の心理と話は進み、色々な話を交え一時間半にわたり話をして下さいました。

ややもすると親の期待や意向が過度になりがちですが、親として何をやるかではなくどう導くか?どうコミュニケーションをとるか?が重要な事だと改めて確認できたと思います。

今回都合が合わず参加できなかった保護者の方々も、来年は是非参加してみたいかがでしょう。



講演する安田先生

### 「救急法」かけがえのない命

日本赤十字社が新潟地震の講演と講習会



本校に於いての講演風景

インターアクトクラブ顧問 村田 澄夫

国際ロータリー第2840地区(群馬県地区)インターアクト年次大会が8月6日、前橋育英高校で開かれた。群馬県内14校のインターアクトクラブに所属する生徒、顧問教師、支援するロータリークラブの会員や来賓150名が参加し、災害時の奉仕活動について学んだ。

や国際交流などをテーマに、各校が持ち回りで開いている。今年度は本校I.A.C.J.R.C.生徒会が合同で主催し、前橋ロータリークラブが後援した。昨年の新潟中越地震を踏まえ、災害時の奉仕活動がテーマとなった。

本校吹奏楽部は、去る七月三十一日に群馬県民会館で開催された第四十七回群馬県吹奏楽コンクール高校B組(三十五名以内)部門において、見事一位で金賞を受賞し、西関東大会への出場を果



練習風景

### 吹奏楽部紹介

顧問 深澤 準一  
指揮者 熊井 正之  
部長 高岸 祐子 (前七中)

今年度の文化祭テーマは「旅行」です。例年よりも具体的なテーマを設定することにより、各所で文化的な催し事になったと思います。生徒一人ひとりが工夫を凝らした催しに期待が高まっています。

放送無線部は昨年度より無線よりも放送部門に重点を置き、活動中です。

### 放送無線部

顧問 阿久津 広嗣

放送無線部は昨年度より無線よりも放送部門に重点を置き、活動中です。



金賞に輝いた部員達



放送部員達



# 創立四十二年を迎えて

前橋育英高等学校  
同窓会 会長 関根 映一  
(第一期生)



同窓会の皆様、お元気でしょうか。  
平素より、我が母校発展のため、物心両面にわたる御協力、心より感謝申し上げます。お陰様で、本年は創立42年を迎え、卒業生も一万八千人を

超え、県内トップクラスの私立高校の地位を築いております。卒業生、在校生の活躍は、会報に詳しく記載してある通りです。高校総体での男子総合優勝を始め、各クラブでの活躍等々、さらに、サンデー毎日、9月11日号に掲載され、特色ある私立高校教育として、脚光を浴びております。さて、我々一期生は、まも

なく還暦を迎える歳になるうとしています。  
いわゆる団塊の世代であります。

私は、今年七月「全国経営者大会」に参加致しました。そこで21世紀日本のビジョン、「団塊世代のあるべき姿」というタイトルで、堺屋太一氏の記念講演を聞くことができました。そこでは、彼らが中学生の時「こんなに多くの人数では、いい教育ができない」と官僚が言ったが、学級崩壊も、不登校生も少なく、受験勉強も熱心で、進学率も伸びた。あるいは一九七〇年前後には、就職難が起こると騒がれたが、供給力より需要力、つまりマーケット創造力に力を発揮し大変な好景気になつて、人手不足を招いた。さらに又、団塊の世代は、先輩達が作ったシステムの中

で懸命に働き、戦後の日本を築いてきた。  
知識と経験の豊富な団塊の世代が、あと数年で、定年退職を迎えるが、定年後の人生でも、必ずリーダーになつていける。「夢と自信をもつことの大切さ、楽しむこと、そして有利なことより好きなことを選ぶことが大事」と、エールを送つて下さいました。今、戦後60年の節目にあたり、私も秘かに、決意していることがあります。中国の文豪魯迅は、「自己満足しない人間が多くいる種族は、いつまでも前進し、いつまでも希望をもつ」といわれております。

同窓会員の皆様、健康第一で、目標をもつて、社会の中で自分らしく雄々しく頑張つていきましよう。

## 私の近況報告

亀井 治  
(第二十五期生)  
(アニメーター)



現在の自分の仕事の内容を御話しします。簡単に説明すれば「アニメーション制作」ということになりました。とは言っても、いわゆるテレビアニメーション(ビデオ作品、劇場作品も含む)で

あつて、個人で制作するクリエイ(粘土)アニメや短編アニメの類ではなく、大勢の人間が関わって一本を作り上げます。自分の仕事は主に「作画」部門で、紙に絵を描いてキャラクターに芝居をつけることです。「作画監督」と呼ばれる仕事が多いですが、「演出」や「絵コンテ」をやることもあります。個々の詳細については割愛しま

すが、業界に入つて十一年経ち、多くの作品に携わつてきました。最近ではコンテンツ産業などと、もてはやされる事も多いアニメ界ですが、多くの問題を抱えていることも実感しました。一つ挙げれば、人材不足です。収入の問題であつたり、自身の適性、仕事の過酷さが理由ですが、数年で業界を去る人が圧倒的に多い。基本的にフリーランスなので、個々の仕事の単価で生計を立てなくてはならず、技術は勿論、スピードも要求されます。代理店ではなく、制

作会社自体が版權を保有する態勢を確立し、それをスナップに還元する。単価が上がれば人材も育つ筈です。我々もより権利を主張すべきでしょう。その為にも多くの若い人にアニメ界に入つてきて欲しいし、私自身微力ながらその一助になりたいと思います。

## 親子二代同窓生 育英というDNA



佐田 知弘  
(第一期生)  
(前橋市役所勤務)



佐田 和弘  
(第三十九期生)



佐田 雄  
(第四十期生)

私は前橋育英高等学校の第一期生であります。入学当時校舎は木造瓦葺二階建のペンキの臭いが鼻を衝く可愛らしい校舎でありました。  
この時私は17歳でした。この時期私の気持ちの中には公立高校受験の失敗による落胆はありませんでした。一時期ありましたが、この高校でもよい「目標は次だ」と思い、自分の努力次第で未来は開けると信じ胸を張つて入学いたしました。当時の一学年は6クラスあり、気合いの入っている生徒が大

勢おり安心いたしました。  
私は現在前橋市役所に勤務しております。昔職場結婚してしまいました。その後昭和60年4月に長男和弘、昭和61年12月に二男雄が年子で生まれました。この二人が小学校では少年野球チームに所属し、ころころ駆け回りつており中学まで続けておりました。親とすると公立高校に進学してくれたらいいなと常々思つておりましたが、結果は父親と同じ道を歩むことになり、前橋育英高等学校に入學いたしました。二男はこれを見て父親や兄と同じ高等学校に進学したいと単願で方針を決め、晴れて入学することができました。  
この春長男は無事大学に進学することができました。二男は現在一浪中ではありますが、将来の目標に向かって頑張っております。この原稿依頼を受けてから卒たちに「育英に入つて良かったか」と尋ねたところ、二人とも「良かった」と迷わず返事が返つてきました。これを聞き改めて教職員の皆様とクラスの仲間へ感謝いたしました。今まで多くの卒業生が築いてきた伝統を更に発展させ、私学の特色を存分に発揮し、生徒に信頼される学校造りを目指すことをお願いし、親子二代にわたつてお世話になつたお礼といたします。

### 高橋 李枝 (第三十五期生)

(ダンスインストラクター)



## 妥協することなく常に挑戦

私は現在ダンスインストラクターとして県内を中心に活動しています。  
高校時代といえば、勉強はイマイチ：というよりも、さっぱり!?



は、若かったからではなく、心から『好き』という気持ちが強かったから。  
ライフワークとして自然に体に染みついていくダンスは私にとってかけがえのないモノです。  
そしてもう一つ。

私が本気で打ち込んでるのは歌う事です。  
ウエディングシンガーとして20歳の頃から人前で歌っていました。が本格的に都内のボイストレーニングに通い始めたのは一年前。今までそれなりに上手いと：自惚れていた

たあとに、しつかりおにぎりや二つ食べてダンススクールで2レッスン!! スクールが無い時は体育館の鏡をかりて自主練習。自宅から自転車です。一時間かけて学校に通っていたので毎日腿がパンパン! 本当にハードな日々でした。  
今思えばすでにこの頃から、自宅には寝るためだけに帰っていたような：現在でもその生活が続いている訳で：。でもこの頃の気持ちは今でも変わらずに続いています。  
あの頃あんなに頑張れたの

自分の歌声にガッソン! と思いきらされた、先生の言葉。  
『自分の歌声に鳥肌が立たないのは致命的』  
人生を変えるといっても過言ではないくらいに衝撃でした。今までは歌手の真似をして上手に歌えれば喜んでもらえた。それがマイナス要因となり、自分の声を無くして

た事に気付けたのです。それからというものの毎日が勉強と苦悩の日々。読めない楽譜に弾けないピアノ。  
週一の都内でのマンツーマンレッスン。は欠かせないイベント! となり、厳しい先生の元へ毎週緊張しながら通っています。  
今の私がこうして好きな事

## 育英卒業生と会える楽しみ



小林 真記 (第二十四期生) (立教大学講師)

育英高校を卒業して、早17年。その間、本当に色々なことがありました。獨協大学外国語学部英語学科を卒業後、高校時代に3年間お世話になったイーオンに就職し、東京の目白校の配属になりました。当時は英語を使って仕事が出来ないという漠然とした気持ちしかなかったのですが、研修を受けた後、実際に授業を受けたりしていくうちに、英語教授法や教師育成についてもっと学びたいと強く思うようになり、大学院留学を決意。アメリカ

残念ながらモントレイには博士課程がなかったため、希望する分野の研究が盛んなところを色々調べた結果、カナダのバンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学大学院言語教育学研究科に進むことにしました。ここでも、指導教官を始め世界的に活躍されている先生の下で学ぶ機会に恵まれ、本当に多くのことを経験し学ぶことができました。博士課程でも留学には、膨大な時間と費用がかかりますが、幸い、大学やカナダ政府から奨学金と研究助成金を頂き、学位論文研究を行うことができました。  
平成15年に、同じく大学で英語の教員をしている妻の仕事

を仕事にしていただけるのは、両親の協力があったからこそ、様々な人々との出会いを繰り返して、あたたかい環境の中で成長出来る事に感謝の気持ちでいっぱいです。妥協することなく常に挑戦、自分と戦う事が今の私の一番幸せな事だと感じています。

サッカー部  
フリスビーで大活躍  
全国九地域で行われた予選フリスビーの関東ブロックを勝ち抜いた本校サッカー部は、高橋李枝だけでなくクラブチームも含めたサッカーの十八歳以下の高橋生年代(U-18)選手権の出場を決めた。大会は九月二十三日〜十月十日まで関東地方各地で熱戦が繰り広げられる。本校サッカー部は一次ラウンドC組で、以下の四チームでのリーグ戦を勝ち抜いて、決勝ラウンド進出が期待される。  
一次ラウンド グループC組  
前橋育英高校(関東代表) 星陵高校(北信越代表) 鵬翔高校 九州代表 愛媛FCユース(四国代表)

### ■一次ラウンド結果速報!!

- 9月23日(金) 対 星陵高校 1:0
- 9月25日(日) 対 鵬翔高校 1:1 引き分け
- 9月30日(金) 対 愛媛FCユース 4:1

### ■決勝トーナメント

- 10月2日(金) 対 鹿児島実高 0:1



於：ひたちなか総合運動公園

# 後援会だより



「学習」はすべての基本  
前橋育英高等学校 後援会会長 前田 勇

過日、本校の硬式野球部後援会の役員会の際に、竹内先生から「野球部の選手は、選手である以前に本校の生徒である。したがって生徒としての自分の学習を先ずしっかりとすべきである。その結果おのずかとして、立派な野球選手になれるはずである。」と申されましたが、まさにその通りであるはずが、

「心技一体」であるべきで、心ある技は、知性すなわち学習に裏付けられていると思えます。勝つためには手段を選ばずは困る。誰が見ても納得のいくものであって欲しい。そして本校の精神的背景「文武両道」を理解すべきであると思います。本校が四十三年の歴史と伝統ある私学として、その真価は、「学習」に支えられた進学とスポーツ両面にあると思われま

## 平成十七年度・第23回後援会総会報告 育英生の活躍を期し バックアップを!!

今年度の後援会総会は例年のように前橋ミヤマ会館で、七月十五日(金)に開催されました。冒頭、小茂田校長より、県全体で男子は総合一位、女子が八位になったこと、全国インターハイには、七種目三十名もの選手を送り出したこと。また、学習面では、英数学館との連携で一層の学力向上を図り、夏休み補習を行ったこと

近況報告がありました。今年度の事業計画の中でも、生徒の皆さんの文化・スポーツ両面での活躍と実力発揮のため今年も約七百万円余のクラブ活動援助金を交付することを決定しました。その他学校施設の改善・リニューアルについても出来るだけのバックアップをすることも確認されました。



校庭からの校舎遠景

長の再任の他、武田弘之保護者会長の副会長他新役員、十人の運営委員が承認されました。

もより、この研修視察旅行は、育英関係の諸団体の会に所属する会員同志の親睦をはかり、関係教職員と共に学園の将来を語り、教育現場に反映すること、を目的としており、毎回有意義で楽しい旅行となっております。今回も一泊二日で宿泊地は瀬波温泉です。後援会をはじめ、保護者会、同窓会、学園協力会、退職教職員等の職員の方々の参加をお待ちしております。

「新潟国際情報高等学校」は、平成四年に創立、生徒数四九五名の男女共学校です。一年は約一六〇名平均ですが、すでに東大他国公立九三名・私立大三八名という進路状況です。

我が「前橋育英」も二世紀へのブランド・デザインを発表。進学面でも大きく飛躍しようとしている今、今回の視察研修は大いに参考となるものと期待されます。



宿泊地・瀬波温泉 沙美荘

新潟県立国際情報高等学校

大学進学率 県内 No.1

高学心のある、知的好奇心旺盛な皆さんの夢を実現できる学校です。

国際文化科	情報科学科
-------	-------

- 合同紙広報委員
- 保護者会 木村 智子(文化委員長)
  - 同窓会 吉田 幸一(副会長)
  - 後援会 城田 博巳(常任理事)
  - 学園 中村 正人(総務課長)
  - 高校 佐藤泰一郎(教頭)
  - 根岸 豊年(事務長)
  - 吉田 幸一(広報室長)

近年、日本ではコミニケーション下手な人が増えてきていると言われている。人間関係が上手くつくれない。話し合いが上手く出来ない。日本社会の病理現象と言ふ人もあるが、その一因に、パソコンや携帯でのメールの普及だと言う。相手と面と向かい合って話さないで済む、一方的に自分の言いたいことだけ書き込み、それでやりとりが出来たと錯覚してしまう。確かに、相手の所まで行く手間が省け、便利かもしれぬが、それは真のコミニケーションではない。そのくせ、たまに会うと、結論を急いだやりとりになり、けんかや衝突を起こすことが多いと言う。やたら情報が増え、便利さだけを追求する中で、自分を見失っていく社会は、しあわせ感を逆に奪っている。生徒と先生、友だちどうし面と向かって、人間らしいやりとりが出来ると学校こそ、今や貴重なコミニケーションの場と言えよう。(S記)

第10回、合同研修旅行

今年は公立高校を視察

11月18日(金)〜19日(土)

新潟県立国際情報高等学校へ

コラム 育英

コミュニケーション